



■ JR 東日本商品化許諾済

ANRS-72381B / 本編 118 分 4,950 円 (税込)
 ANRS-72380 / 本編 118 分 3,981 円 (税込)

■ 撮影日 / 2023 年 5 月 10 日 (水) 晴
 ■ 区間 / 南小谷 (12:03 発) ⇒ 松本 (14:00 着) 5538M E127 系 2 両

■ 本編の概要 ■

山間の南小谷を発車し、線路沿いに流れる姫川の向きとは逆に南下して行く。第 1 姫川橋りょうを渡ると、目前には白馬岳をはじめ、後立山連峰の容姿が望めるハイライト区間となる。シーズンオフの白馬では地元客を中心に乗車があり、神代を出ると分水嶺の佐野坂峠に向って、上り勾配やカーブが続く区間に挑む。峠を越えると、林の間から青木湖が望め、海ノ口近くでは木崎湖が右側に広がる。線内中心駅の信濃大町ではまとまった数の乗車があり、南大町を出て高瀬川を渡るときは、遠方に穂高岳などが見える。沿線の田んぼに水が張られた安曇野を走り抜け、梓川を渡ると松本市内に入る。島内を過ぎると、左側から篠ノ井線が接近し、並走しながら終着の松本へ向う。

◆ 展望本編の主なキャプチャ画像 ◆

*本編は 4K30P 規格での撮影のため、車窓の一部に残像を感じることがあります。



駅周辺の新緑が美しい南小谷を発車。松本までは約 2 時間の行程だ。



日本海側へ向う姫川の流れとは逆に南下して進んで行く。
(南小谷～千国)



第 2 姫川橋りょうを渡る。早瀬に立つ白波が印象的だ。
(千国～白馬大池)



白馬岳をはじめ、後立山連峰の容姿が正面に望めるハイライト区間。
(白馬大池～信濃森上)



白馬に到着。シーズンオフの利用者は地元客が中心だ。



サミットの佐野坂峠に向って、上り勾配とカーブが続く山間部を走る。
(神代～南神代)



峠越えが終わると、右側に木々の間から青木湖が見えてくる。
(南神代～築場)



始発駅から約 40 分後の築場で、初めての下り列車との交換。



5 月初旬でもまだ桜が咲いている所もある。右には木崎湖が広がる。
(築場～海ノ口)



信濃大町は線内で最も規模が大きい駅で、構内も広く、複数の留置線もある。



高瀬川を渡る。右前方遠くには、穂高岳などを望める。
(南大町～信濃常盤)



信濃大町から南の区間は列車本数も増え、交換もしばしば見られる。
(豊科)



安曇野の田んぼには水が張られ、間もなく田植えのシーズンを迎える。
(一日市場～梓橋)



梓川を渡り安曇野に別れを告げ、松本市内へ入って行く。
(梓橋～島高松)



島内を出ると左側から篠ノ井線が並走してくる。北松本は大糸線側のみにホームがある。



終着の松本に到着。風光明媚な景色を見ながらの旅も終了だ。

■ 撮影時の気象条件や機材との関係により、明暗のバランスの乱れがある区間があります。また、列車の進行方向によって、逆光による反射光で正面ガラスへの写り込み、汚れ等で展望が見づらいと感じる区間もありますが、あらかじめご了承下さい。